

夏の思い出

江間章子 作詞 / 中田喜直 作曲

♩=63 ぐらい



鼻濁音

mp

1 なつがくれば おもいだす はるかなおぜ とおいそら
 2 なつがくれば おもいだす はるかなおぜ ののたびよ

p

きりのなかに うかびくる やさしいかげ ののこみち
 はなのなかに そよそよと ゆーれゆれる うきしまよ

◎歌詞の表す情景を思い浮かべて、語感や強弱に気をつけながら歌いましょう。

◎伴奏の形や響きの変化を感じ取りながら歌いましょう。

二、夏がくれば 思い出す

はるかな尾瀬 野の旅よ
 花のなかに そよそよと
 ゆれゆれる 浮き島よ
 水芭蕉の花が におっている
 夢みてにおっている 水の辺り
 まなこつぶれば 懐かしい
 はるかな尾瀬 遠い空

一、夏がくれば 思い出す

はるかな尾瀬 遠い空
 霧のなかに うかびくる
 やさしい影 野の小径
 水芭蕉の花が 咲いている
 夢みて咲いている 水の辺り
 石楠花色に たそがれる
 はるかな尾瀬 遠い空



歌詞にある尾瀬とは尾瀬ヶ原のこと。群馬県と福島県および新潟県の境にあり、湿原植物の宝庫といわれている。

mp *ピアノ* *ヒアニングモ* *とて弱く* *pp* *×マヤクシに* *mp* *三連符* *テヌート* *長さを保って* *dim.*

みずばしょう のは **なが** さいている ゆめみてさいている み ずのひとり
みずばしょう のは **なが** におっている ゆめみてにおっている み ずのひとり

p *mf* *p* *フェルマータ* *ほとんど伸ばして*

しゃくなげいーろに たそ**が**れる はるかなおぜ とおいそら
まーなこつぶれば なつかしい はるかなおぜ とおいそら

1. *mp* *p* 2. *p*

二長調 ● p.77 dim. ● p.79



え ま し ょ う こ
江間章子(1913~2005)
新潟県に生まれ、岩手県で育った。雑誌「椎の木」の同人として詩を書き始め、「イラク紀行」などの著書や訳書がある。歌曲の詩も多い。



な か だ よ し な お
中田喜直(1923~2000)
東京に生まれた。「めだかのがっこう」などの童謡をはじめ、歌曲、合唱曲、ピアノ曲など、多岐にわたる数多くの作品を残した。

[石楠花色] ^{うす}薄い紅色 [浮き島] 湿原や沼に浮いて、島のように見えるもの

作曲者の言葉

昭和24年、NHKから「ラジオ歌謡」のための作曲を依頼された。当時、私は一度も尾瀬に行ったことはなかったが、いつものように、詩を読んでいるうちにわいてきたイメージをもとにその場で書き上げた。後に、尾瀬を訪れる機会を得て、この詩のすばらしさを改めて感じた。この曲は、美しい自然に話しかけるような気持ちで歌い、詩や旋律の流れを楽しむようにしてほしい。また、同じ旋律のところも、伴奏の響きの違いを味わってほしい。